

賃金向上特別セッションの主な論点

2024年11月26日

柳川 範之

賃上げとマクロ経済に関する主な論点

1. 賃上げを起点とした成長と分配の好循環

- ① 原油高・円安を起点としたコストプッシュ圧力が、賃金やサービス価格上昇として波及し、「賃金と物価の好循環」が回りつつある。この流れを「物価上昇を上回る賃金上昇の定着」に結び付けていくためには、どのような経済運営が求められるか。
- ② 賃上げを起点として、A)就労促進による人手不足緩和、B)消費拡大による収益改善、C)省力化投資による生産性向上などがもたらされる「賃上げを起点とした成長と分配の好循環」の実現に向けては、どのような環境整備が必要か。

2. 高付加価値創出型経済による賃上げの定着

- ① 構造的・持続的な賃上げを実現するためには、経済構造をコストカット型から高付加価値創出型に転換する必要。そのカギとなる戦略は何か。(ex 企業経営を「守り」(雇用維持)から「攻め」(投資)重視へ、下請けの価格転嫁を含めた適切なマークアップの確保、地域資源のデジタル化・収益化)
- ② 人手不足の下で、経済全体の生産性を高め、需要を創出し、それを賃上げにつなげるためには、どのような対応が求められるか。(ex 労働移動の円滑化、M&Aや事業承継の円滑化などのダイナミズムの向上)

3. 賃上げの普及・拡大・人手不足対応

- ① 賃上げの流れを更に拡大し、非正規、中小企業、地方などを含めて普及するためには、どのような取組を進めるべきか。(ex 最低賃金の在り方)
- ② 人手不足の中で、エッセンシャルワーカーや公的分野の賃上げに向け、官民でどのような対応が求められるか。(ex 予算・制度面での対応、AI等の現場への導入)
- ③ 人手不足の緩和に向け、労働供給を拡大するため、どのような取組を進めるべきか。(ex 働き方に中立的な制度の構築、その周知広報)